

京浜管理事務所管内 R 8 橋梁補修設計

特 記 仕 様 書

令和 8 年 6 月

東日本高速道路株式会社 関東支社
京 浜 管 理 事 務 所

目 次

| | 頁 |
|-----------------------|----|
| 第 1 章 総則 | |
| 1－1 調査等概要 | 1 |
| 1－2 適用する共通仕様書 | 2 |
| 1－3 テクリスへの登録 | 2 |
| 1－4 履行期間 | 2 |
| 1－5 資料の貸与 | 3 |
| 1－6 受注者相互の協力 | 3 |
| 1－7 発注者または監督員が行う協議 | 3 |
| 1－8 計画工程表 | 4 |
| 1－9 調査等打合簿の作成及び提出について | 4 |
| 1－10 三者協議会について | 5 |
| 1－11 ウィークリースタンスの取組み | 5 |
| 第 2 章 業務細部に関する事項 | |
| 2－1 業務の概要 | 6 |
| 2－2 設計構造物の内容 | 6 |
| 2－3 調査 | 6 |
| 2－4 維持修繕設計 | 8 |
| 2－5 成果品 | 13 |
| 2－6 補足事項 | 13 |
| 添付資料 | |
| 様式－1 履行期間通知書 | |

第1章 総則

1-1 調査等概要

1-1-1 調査等名 京浜管理事務所管内 R8 橋梁補修設計

1-1-2 道路名 第三京浜道路

横浜新道 (一般国道 1号区間)

横浜新道 (一般国道16号区間)

横浜横須賀道路

横浜横須賀道路金沢支線

1-1-3 履行箇所 第三京浜道路

自) 東京都世田谷区野毛 (KP 0.0)

至) 神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢西町 (KP 16.4)

横浜新道 (一般国道1号区間)

自) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区峰沢町 (KP 0.0)

至) 神奈川県横浜市戸塚区上矢部町 (KP 10.1)

横浜新道 (一般国道16号区間)

自) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区藤塚町 (KP 0.0)

至) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区狩場町 (KP 1.2)

横浜横須賀道路

自) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区狩場町 (KP 1.2)

至) 神奈川県横須賀市馬堀海岸 (KP 34.0)

横浜横須賀道路金沢支線

自) 神奈川県横浜市金沢区釜利谷町 (KP 0.0)

至) 神奈川県横浜市金沢区並木 (KP 4.4)

1-1-4 主な履行内容

| 設計種別 | 工種・細目・名称 | 数量 | 備考 |
|--------|----------------|-----|-----------------|
| 調査 | 鋼製橋脚基礎 超音波測定 | 1箇所 | 川崎高架橋 (P76) |
| 維持修繕設計 | 現地踏査 | 1式 | 川崎高架橋 東山田高架橋 |
| | 鋼桁補修 | 5箇所 | |
| | 伸縮継手 | 6枚 | |
| | 支承 | 8箇所 | |
| | 鋼製橋脚基礎 | 1基 | |
| | 施工計画 | 2箇所 | |
| | 工事発注用図面作成 数量計算 | 1枚 | |
| | 工事発注用図面作成 図面修正 | 9枚 | |
| | 設計打合せ | 1式 | |

1-2 適用する共通仕様書

契約書第1条に規定する「調査等共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）は、令和7年7月版とする。また、契約書第1条に規定する仕様書に「土木工事共通仕様書」を追加し、令和7年7月版を適用するものとする。

1-3 テクリスへの登録

本業務は、「調査等における余裕期間制度」を適用しており、共通仕様書1-12-4「テクリスへ登録」の規定によらず、以下のとおりとする。

受注者は、受注時または変更時において請負金額が100万円以上の調査等について、業務実績情報システム（以下「テクリス」という。）に基づき、受注・変更・完了・訂正時に業務実績情報として作成した「登録のための確認のお願い」をテクリスから監督員宛に電子メールを送信し、「登録内容確認システム」を用いて、監督員の確認を受けた上で、以下の期限までに登録機関に登録申請しなければならない。ただし、登録期限には、土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に定める国民の祝日（以下「休日等」という。）及び共通仕様書1-3「日数等の解釈」に規定する日数は含まない。

（1）受注時は、受注者が設定した業務の始期から15日以内

（2）登録内容の変更時は、変更があった日の翌日から15日以内

（3）完了時は、完了届提出日の翌日から15日以内

また、登録機関発行の「登録内容確認書」は、テクリス登録時に監督員にメール送信される。なお、変更時と完了時の間が15日間に満たない場合は、変更時の登録申請を省略できるものとする。

当該業務において調査基準価格を下回る金額で落札した場合、テクリスに業務実績情報を登録する際は、「低価格入札」にチェックした上で、「登録のための確認のお願い」を作成し、監督員の確認を受けること。

また、本業務の完了後において訂正または削除する場合についても同様に、テクリスから受注者にメールを送信し、「登録内容確認システム」を用いて、速やかに発注者の確認を受けた上で、登録機関に登録申請しなければならない。

なお、テクリス登録に要する費用は受注者の負担とする。

1-4 履行期間

本業務は、共通仕様書1-13「着手日等」の規定によらず、受注者の円滑な業務執行体制の確保を図るため、事前に技術者確保等の準備を行うことができる全体履行期間及び余裕期間を設定した業務であり、発注者が示した全体履行期間内（業務完了期限までの間）で、受注者が業務の始期（業務着手日）及び終期（業務完了日）を任意に設定することができる。なお、契約上の履行期間は、契約保証取得の日の翌日から受注者が設定した業務の終期までの期間とする。

余裕期間内は、管理技術者、照査技術者又は現場作業責任者を設置することを要しない。また、業務着手以外の業務のための準備を行うことができるが、現地踏査や打合せを行ってはならない。

なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

受注者は、落札者決定から10日以内に、履行期間通知書（様式—1）により、業務の始期及び終期を発注者へ通知しなければならない。

余裕期間（業務着手期限）：契約保証取得の日の翌日から 100 日間

全体履行期間（業務完了期限）：契約保証取得の日の翌日から 360 日間

※全体履行期間は余裕期間を含む日数

1-5 資料の貸与

共通仕様書 1-15-1 及び 5-2-3「資料の貸与」に基づく貸与資料は、下表のとおりとする。なお、履行期間中業務においては貸与予定日であり、変更がある場合は別途監督員より通知する。

| 貸与資料 | 貸与 予定日 | 備考 |
|--------------------------|-----------|--------------|
| 川崎高架橋完成図 | 契約締結後 | DocuWorks 文書 |
| 東山田高架橋完成図 | | DocuWorks 文書 |
| 第三京浜道路 東山田高架橋改良工事 | | DocuWorks 文書 |
| 第三京浜道路 東山田高架橋伸縮装置補修工事 | | DocuWorks 文書 |
| 第三京浜道路 川崎高架橋他5橋支承改良その他工事 | | DocuWorks 文書 |
| 保全点検資料 (点検報告書) | | DocuWorks 文書 |

1-6 受注者相互の協力

共通仕様書 1-20「受注者相互の協力」に示す「隣接または関連の調査等の受注者」は、下表のとおりとする。なお、下表は現時点のものであり、変更が生じた場合は監督員より通知する。

| 調査等業務名 | 履行期間 | 受注者 | 発注機関 | 備考 |
|-----------------------|-------------------------|-------------|------|----|
| 第三京浜道路 玉川高架橋橋梁補修工事 | 令和6年9月3日 ～令和8年11月21日 | ショーボント建設(株) | 当社 | |
| 第三京浜道路 川崎高架橋塗替塗装工事 | 令和7年3月6日 ～令和9年4月24日 | ショーボント建設(株) | 当社 | |
| 第三京浜道路 川崎高架橋耐震補強工事 | 令和7年3月25日 ～令和10年4月7日 | ショーボント建設(株) | 当社 | |

1-7 発注者または監督員が行う協議

発注者または監督員が行う協議で本業務に関連する主な施設及び管理者、必要な協議の有無並びに協議の完了予定時期は、下表のとおりとする。

なお、本項目に記載する協議は、受注者が共通仕様書 1-16「関係官公署及び関係会社への手続き」に従って行う協議以外である。また、本業務の検討内容に応じて必要な協議の有無及び完了予定時期を変更する場合がある。

(1) 道路関係

| 位置 | 路線名 | 管理者名 | 必要な協議 | 協議完了予定 |
|--------------------|-------|----------------------------|----------------------|---------|
| 第三京浜道路 KP2.4 付近 | 二子千年線 | 川崎市高津区道路公園センター 川崎高架橋 路下 | ・ 施工時の近接協議 ・ 施工時期 | 令和9年3月末 |

1-8 計画工程表

1-8-1 計画工程表の記載事項

共通仕様書 1-14-1「作業計画書の提出」(2)に示す作業計画書中の計画工程表の作成にあたっては、下記の項目ごとに作業完了時期を明示し提出するものとする。ただし、記載する項目は監督員と受注者との協議の上変更することができるものとする。

計画工程表は共通仕様書 1-9-3「照査の実施」に基づく照査の実施時期及び共通仕様書 1-22「打合せ」に規定する打合せの実施時期についても十分検討の上作成するものとし、これらの事項は計画工程表に記載するものとする。

| 種別 | 工種 | 作業単位 | 備考 |
|--------|----------------|-----------------|----|
| 調査 | 鋼製橋脚基礎 超音波測定 | 川崎高架橋 (P76) | |
| 維持修繕設計 | 現地踏査 | 川崎高架橋 東山田高架橋 | |
| | 鋼桁補修 | | |
| | 伸縮継手 | | |
| | 支承 | | |
| | 鋼製橋脚基礎 | | |
| | 施工計画 | | |
| | 工事発注用図面作成 数量計算 | | |
| | 工事発注用図面作成 図面修正 | | |
| | 設計打合せ | | |

1-8-2 計画工程表に基づく作業状況の報告

受注者は共通仕様書 1-22「打合せ」に規定する打合せの実施時に、作業の実施状況を計画工程表に記載した上で監督員に報告をするとともに、共通仕様書様式第 1-4 号「調査等打合簿」に添付するものとする。

なお、受注者は前項で規定した完了時期が著しく変更となる場合は、共通仕様書 1-14-3「変更作業計画書」に基づき変更計画工程表を監督員に提出するものとする。また、その結果調査等内容の変更が生じる場合の取扱いを受注者と監督員との協議の上決定するものとする。

1-9 調査等打合簿の作成及び提出について

受注者による共通仕様書 1-22「打合せ」に規定する調査等打合簿の監督員への提出は、打合せ後 7 日以内（休日等を除く）に監督員に提出するものとする。

また、監督員は受注者より提出のあった調査等打合簿を受領後 7 日以内（休日等を除く）に受注者へ返送するものとする。

1－10 三者協議会について

本業務の成果による発注工事（以下「予定工事」という。）において発注者及び受注者並びに予定工事の受注者が協同して、設計の理念及び意図に関わる理解を深め、適切な工事目的物の完成に資するよう技術情報の確認及び交換を行うことを目的として「予定工事の品質確保を推進する設計施工協同連絡会議」（以下「三者協議会」という。）を開催する場合がある。

三者協議会の実施は、本調査等業務の受渡し後に別途発注者及び受注者並びに予定工事の受注者との協定を結ぶものとする。受注者の三者協議会の参加に要する費用については、協定書によるものとする。

なお、本条項の記載により受注者の三者協議会への参加を義務付けるものではない。

1－11 ウィークリースタンスの取組み

ウィークリースタンスの取組みとは、受発注者間における仕事の進め方として、一週間における受発注者間相互のルールや約束事、スタンスを目標として定め、計画的に業務を履行することにより、業務環境等を改善し、より一層魅力ある仕事、職場の創造に努めることを目的とした取組みであり、本業務において積極的に取組むこととする。

取組み内容は、契約締結後の打合せにおいて監督員と受注者との協議の上実施する取組み事項を定め、調査等打合簿を作成し相互に確認するものとする。

あらかじめ定めた取組み事項を実施できない事象が生じた場合の取扱いについては、その都度監督員と受注者と協議の上定めるものとする。

第2章 業務細部に関する事項

2-1 業務の概要

本業務は対象橋梁について、「設計要領第二集（橋梁保全編）」に基づき設計条件を整理するとともに、当該地点の地形、地質等の条件において、既存橋梁の確認を行い、施工性、経済性の観点から当該橋梁の詳細な設計（以下、「詳細設計」という。）を行うものである。また、設計にあたっては、共通仕様書5-11「工事発注用図面作成」及び7-3「維持修繕設計」の関連項目を適用する。

2-2 設計構造物の内容

本業務における既設構造物の形式等の内容は下表のとおりである。

| 橋梁名 | 上下 区分 | 適用 道示 | 上部工 構造形式 | 下部工 | | | | | 支承 構造形式 | 補修 対象 箇所 |
|------------|----------|----------------------------|-------------|----------------|---------------|------------------|----------------|------------------|--------------|-----------------|
| | | | | 下部 工 No. | 高 さ (m) | 支 承 条 件 | 構造形式 | 耐震補強形式 | | |
| 川崎 高架橋 | 上 | 鋼道 路橋 設計 示方 書等 | RC 連続中空床版桁 | A1 | 12 | M | 扶壁式橋台 | － | BP 支承 | 支承 |
| | 上 | | RC 単純中空床版桁 | P38 | 10 | M | ラーメン式橋脚 | RC 巻立て | BP 支承 | 伸縮 継手 |
| | 上 | | RC 単純中空床版桁 | P43 | 10 | M | ラーメン式橋脚 | RC 巻立て | BP 支承 | 伸縮 継手 |
| | 上下 | | 鋼単純合成鈑桁 | P76 | 9 | M | 鋼製橋脚 | － | ビッソーラー 支承 | 鋼製 橋脚 基礎 |
| | 下 | | RC 連続中空床版桁 | A1 | 12 | M | 扶壁式橋台 | － | BP 支承 | 伸縮 継手 |
| | | | | P1 | 10 | M | ラーメン式橋脚 | － | BP 支承 | 支承 |
| | | | | P5 | 10 | M | ラーメン式橋脚 | 炭素繊維巻立て | BP 支承 | 支承・ 伸縮 継手 |
| | 下 | | RC 単純中空床版桁 | P24 | 11 | M | ラーメン式橋脚 | 鋼板巻立て | BP 支承 | 支承 |
| | | | | P33 | 10 | M | ラーメン式橋脚 | 鋼板巻立て | BP 支承 | 支承 |
| | 下 | | RC 連続中空床版桁 | P58 | 10 | M | ラーメン式橋脚 | 鋼板巻立て PC 鋼材連結 | BP 支承 | 支承 |
| | 下 | | PC 単純連続箱桁 | P59 | 10 | M | ラーメン式橋脚 | － | BP 支承 | 伸縮 継手 |
| | 下 | | RC 連続中空床版桁 | P65 | 11 | M | ラーメン式橋脚 | 鋼板巻立て PC 鋼材連結 | BP 支承 | 支承 |
| | 下 | | RC 連続中空床版桁 | P95 | 13 | M | ラーメン式橋脚 | － | BP 支承 | 支承 |
| 東山田 高架橋 | 上 | 鋼単純 合成桁 | P10 | 12 | F/M | A 型ラアメ ン橋脚 | 鋼板巻立て | ゴム支承 | 伸縮 継手 | |
| | 上 | 鋼単純 合成桁 | P10 P11 | 12 12 | F/M F/M | A 型ラアメ ン橋脚 | 鋼板巻立て 鋼板巻立て | ゴム支承 ゴム支承 | 鋼桁 補修 | |

2-3 調査

2-3-1 鋼製橋脚基礎 超音波測定

鋼製橋脚基礎 超音波測定とは、本特記仕様書2-4-5「鋼製橋脚基礎」に示す設計に先立ち、現地にて腐食範囲および減肉量を超音波を用いて計測するものである。なお計測点は2 m²につき1点とし、計測点については、事前に監督職員と協議のうえ決定するものとする。

超音波測定を行うものは、「非破壊試験技術者 レベル1（UT：超音波探傷試験）」と同等以上の資格を有するものとする。

計測に先立ち、超音波計測点の墨だし及び、超音波測定に必要な素地調整の要否を確認する事前調査を1日で実施し、素地調整が必要な箇所を監督員へ報告するものとする。なお、素地調整の費用については、監督員と別途協議し定めるものとする。

また、補修検討で考慮すべき損傷箇所周辺の既設構造物の構造、添架物の状況を確認し、補修検討に適切に反映できるよう整理するものとする。

「鋼製橋脚基礎 超音波測定」の検測数量は箇所数（箇所）とする。

2-3-2 交通保安要員

交通保安要員とは土木工事共通仕様書19-4 交通保安要員に示すことをいう。

交通保安要員とは、本特記仕様書2-3-1「鋼製橋脚基礎 超音波測定」に示す調査を実施するにあたり、配置するものである。

(1) 種別

土木工事共通仕様書19-4-2「種別」に下表を追加する。

| 単価表の項目 | 配置時間 | 備考 |
|-----------|-------------|----|
| 交通誘導警備員 B | 09：00～17：00 | |

上表の配置時間は、作業時間（休憩時間を含む）とする。なお、受注者の責によらず、交通保安要員の配置時間が大幅の変更となった場合、これに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

(2) 配置

交通保安要員の配置場所、配置人数、交代要員は次とおりとする。

| 配置場所 | 交通保安要員の種別 | 配置人員 | 交替要員 | 摘要 |
|-------------------------|------------------------|-------|-------|-------|
| 市道二子千年線 (上り線 P76 付近) | ・規制箇所 交通誘導警備員 B | 0.5 人 | 0.5 人 | 事前調査 |
| 市道二子千年線 (下り線 P76 付近) | | 0.5 人 | 0.5 人 | |
| 市道二子千年線 (上り線 P76 付近) | | 1 人 | 1 人 | 超音波測定 |
| 市道二子千年線 (下り線 P76 付近) | | 1 人 | 1 人 | |

2-3-3 移動足場工

移動足場工とは、本特記仕様書2-3-1「鋼製橋脚基礎 超音波測定」を行うために必要な高所作業車の費用をいう。移動足場工の単価表の項目に示す種別は、下表のとおりとする。

| 項目 | 単位 | 区分 | 備考 |
|-------|-----|-------------------------------------|----|
| 移動足場工 | 台・日 | トラック架装リフト（ブーム型） 揚程8～12m未満（運転手付き） | |

「移動足場工」の検測の検測は、監督員が認めた設計数量（台・日）で行うものとする。

2-4 維持修繕設計

2-4-1 現地踏査

現地踏査は、本特記仕様書の各項目に示す設計対象箇所設計に必要な現地条件について、橋梁の構造、損傷状況及び添架物等の基本的事項を把握するものとする。また、現地踏査は発注者、受注者合同で行うものとする。なお、貸与する既存の資料等と現地状況とに相違がある場合は、速やかに監督員に報告するものとする。

2-4-2 鋼桁補修

鋼桁補修の設計は破損、発錆等により損傷した鋼桁の補修または取替を行うために必要な設計をいう。

鋼桁補修の設計の検測数量は箇所数（箇所）とする。

(1) 種別

設計の種別及び内容、設計区分は下表のとおりとする。

| 種 別 | 内 容 | 設計区分 | 備考 |
|--------|---|------|----|
| 鋼桁補修 A | 当て板補修、切断等による鋼部材の部分取替、部材の全取替等に必要な設計のうち基本なる設計 | 詳細設計 | |
| 鋼桁補修 B | 鋼桁補修 A の設計が準用できるもの | 詳細設計 | |

(2) 対象橋梁

設計の対象橋梁及び箇所は下表のとおりとする。

| 橋梁名 | 上下区分 | 下部工 No. | 数量 | 関連する 内訳書の項目 | 備 考 |
|--------|------|---------|------|----------------|-----|
| 東山田高架橋 | 上 | P10、P11 | 1 箇所 | 鋼桁補修 A | |
| | | P10、P11 | 4 箇所 | 鋼桁補修 B | |

(3) 設計計算

鋼桁補修の設計計算は共通仕様書 7-3-3 「設計内容」の関連項目に準ずるものとする。なお、構造変更を伴う設計及び設計計算が必要となる場合は、その費用について監督員と別途協議し定めるものとする。

(4) 図面作成

鋼桁補修の図面作成は共通仕様書 7-3-3 「設計内容」の関連項目に準ずるものとする。なお、設計図面の範囲及び内容は下表によるものとする。

| 構造区分 | 内 容 |
|-------|----------------------------|
| 一般図 | 既設橋梁一般図に設計条件、施工位置等の必要事項を記入 |
| 詳細構造図 | 当該設計に係わるすべての構造詳細図及び使用材料表 |

(5) 数量計算

鋼桁補修の数量計算は共通仕様書 7-3-3 「設計内容」の関連項目に準ずるものとする。

2-4-3 伸縮継手

伸縮継手の設計は漏水のある伸縮継手の補修または取替を行うために必要な設計をいう。伸縮継手の設計の検測数量は作成した図面枚数（枚）とする。

(1) 種別

設計の種別及び内容、設計区分は下表のとおりとする。

| 種 別 | 内 容 | 設計区分 | 備考 |
|-------|--|------|----|
| 伸縮継手A | 幅員全幅の止水材の設置等、補修または取替に必要な設計で同一種類の伸縮継手のうち基本となる設計 | 詳細設計 | |

(2) 対象橋梁

設計の対象橋梁及び箇所は下表のとおりとする。

| 橋梁名 | 上下区分 | 下部工 No. | 数量 | 関連する 内訳書の項目 | 備 考 |
|--------|------|-----------|-----|----------------|-----|
| 川崎高架橋 | 上 | P38、P43 | 2 枚 | 伸縮継手A | |
| | 下 | A1、P5、P59 | 3 枚 | 伸縮継手A | |
| 東山田高架橋 | 上 | P10 | 1 枚 | 伸縮継手A | |

(3) 図面作成

伸縮継手Aの図面作成は共通仕様書7-3-3「設計内容」の関連項目に準ずるものとする。なお、設計図の範囲及び内容は下表によるものとする。

| 構造区分 | 内 容 |
|-------|----------------------------|
| 一般図 | 既設橋梁一般図に設計条件、施工位置等の必要事項を記入 |
| 詳細構造図 | 当該設計に係わるすべての構造詳細図及び使用材料表 |

(4) 数量計算

伸縮継手Aの数量計算は共通仕様書7-3-3「設計内容」の関連項目に準ずるものとする。

2-4-4 支承

支承の設計は破損、発錆等により損傷した支承の取替または補修を行うために必要な設計をいい、内容は下表のとおりとする。なお、下表内の「支承取替時の既設支承の照査」を満足しない場合は、仮設の固定装置の設置を追加検討するものとする。

支承の設計の検測数量は設計を行った支承線の箇所数（箇所）とする。

| 項 目 | 内 容 | 備考 |
|---------------|--|----|
| 支承設計 | 毀損した支承と同形状の支承設計 | |
| 台座設計 | 支承高さを調整するための構造物設計 | |
| 既設橋梁照査 | 橋台及び橋脚天端面、主桁支点、ジャッキアップ位置における上下部工の照査 | |
| 支承取替時の既設支承の照査 | 支承取替施工時に仮受するジャッキについては、一支承線上で最初の支承を取り替える際に、残った支承でL1地震時相当の水平力を支持可能か照査。 | |

(1) 種別

設計の種別及び内容、設計区分は下表のとおりとする。

| 種 別 | 内 容 | 設計区分 | 備考 |
|-----|-------------------|------|----|
| 支承A | 同一種類の支承のうち基本となる設計 | 詳細設計 | |
| 支承B | 支承Aの設計が準用できるもの | 詳細設計 | |

(2) 対象橋梁

設計の対象橋梁及び箇所は下表のとおりとする。

| 橋梁名 | 上下区分 | 下部工 No. | 数量 | 関連する 内訳書の項目 | 備考 |
|-------|------|-----------------------------|------|----------------|----|
| 川崎高架橋 | 上 | A1 | 1 箇所 | 支承 A | |
| | 下 | P24、P33（起点）、P58、P65、 P95 | 5 箇所 | 支承 A | |
| | | P1、P5（起点） | 2 箇所 | 支承 B | |

（３）設計計算

支承の設計計算は、共通仕様書 7-3-3 「設計内容」の関連項目に準ずるものとする。なお、貸与される既存資料より設計に必要な既設橋梁の支点反力等の条件を別途算出する必要がある場合や、既設橋梁の照査結果より上下部工の補強が必要な場合、支承取替用のブラケットやベントの設計が必要になった場合の費用については、監督員と別途協議し定めるものとする。

（４）図面作成

支承の図面作成は共通仕様書 7-3-3 「設計内容」の関連項目に準ずるものとする。なお、設計図面の範囲及び内容は下表によるものとする。

| 構造区分 | 内 容 |
|-------|----------------------------|
| 一般図 | 設計橋梁一般図に設計条件、施工位置等の必要事項を記入 |
| 詳細構造図 | 当該設計に係わるすべての構造詳細図及び使用材料表 |

（５）数量計算

支承の数量計算は共通仕様書 7-3-3 「設計内容」の関連項目に準ずるものとする。

2-4-5 鋼製橋脚基礎

鋼製橋脚基礎の設計は発錆等により損傷した鋼製橋脚基礎を、本特記仕様書 2-3-1 「鋼製橋脚基礎 超音波測定」の調査結果に基づき補修を行うために必要な設計をいう。

鋼製橋脚基礎の設計の検測数量は箇所数（基）とする。

（１）種別

設計の種別及び内容、設計区分は下表のとおりとする。

| 種 別 | 内 容 | 設計区分 | 備考 |
|----------|--|------|----|
| 鋼製橋脚基礎 A | 既設鋼製橋脚基礎の素地調整、補修材（鋼製リング半円×2）の設置、鋼製橋脚基礎の防錆等補修に必要な設計 | 詳細設計 | |

（２）対象橋梁

設計の対象橋梁及び箇所は下表のとおりとする。

| 橋梁名 | 上下区分 | 下部工 No. | 数量 | 関連する 内訳書の項目 | 備考 |
|-------|------|------------|-----|----------------|----|
| 川崎高架橋 | 上下 | P76 | 1 基 | 鋼製橋脚基礎 A | |

（３）設計計算

鋼製橋脚基礎補修の施工を正確かつ効率よく施工するに必要なすべての設計計算を行うものとする。

(4) 図面作成

鋼製橋脚基礎の図面作成は当該鋼製橋脚基礎の施工の実施及び管理に必要なすべての図面を作成するものとする。なお、設計図面の範囲及び内容は下表によるものとする。

| 構造区分 | 内 容 |
|-------|----------------------------|
| 一般図 | 設計橋梁一般図に設計条件、施工位置等の必要事項を記入 |
| 詳細構造図 | 当該設計に係わるすべての構造詳細図及び使用材料表 |

(5) 数量計算

鋼製橋脚基礎の数量計算は、工事の積算、施工に必要な材料の数量を計算するものとする。

2-4-6 施工計画

施工計画とは、本業務により設計された構造物を施工するために必要な施工計画を立案するものをいい、内容は下記のとおりとする。

施工計画の検測数量は箇所数（箇所）とする。

| 項 目 | 内 容 | 備考 |
|-------|--|----|
| 進入路計画 | 工事箇所までの材料搬入等工事用車両の進入に関する計画の立案 | |
| 仮設計画 | 施工に必要な仮設構造物計画及びトラッククレーン、高所作業車等の施工機械配置計画、施工ステップ [°] の立案 ※施工時に一般道の交通規制が必要な場合は、車線規制及び固定規制等交通規制に関する計画の立案 | |

(1) 対象橋梁

施工計画の対象橋梁及び箇所は下表のとおりとする。

| 対象橋梁 | 数量 | 地形条件 | 備考 |
|--------|----|------|----|
| 川崎高架橋 | 1 | 市街地 | 単純 |
| 東山田高架橋 | 1 | 市街地 | 単純 |

(2) 図面作成

施工計画の図面作成の範囲及び内容は下表のとおりとする。

| 項 目 | 内 容 | 備考 |
|--------|---|----|
| 進入路計画図 | 既設橋梁一般図または平面図に進入路の位置、幅員等を記入 | |
| 施工要領図 | 仮設構造物及び施工ヤード [°] を記載した平面図、側面図、施工ステップ [°] 等の作成 | |
| 交通規制図 | ① 既設橋梁一般図または平面図に交通規制位置図、作業帯、施工機械等を記入 ② 交通規制一般図 | |

(3) 数量計算

施工計画の数量計算は、工事の積算、施工に必要な材料の数量を計算するものとする。

2-3-7 工事発注用図面作成 図面修正

工事発注用図面作成とは、鋼桁補修、伸縮継手、支承、鋼製橋脚基礎等に必要な図面作成を行うものであり、橋梁一般図への施工範囲旗上げや各工種の補修標準図、展開図への補修箇所旗上げなどをいう。

工事発注用図面作成の検閲数量は、図面修正枚数（枚）とする。

（１） 種別

図面作成は共通仕様書 5－1 1－1「図面修正」の規定により、種別は下表のとおりとする。

| 種別 | 内容 | 図面の区分 | 数量 | 備考 |
|--------|--------------------------------|----------|-----|------------|
| 図面修正 A | 位置図(川崎高架橋、東山田高架橋) | 比較的簡易な図面 | 1 枚 | 修正率 10% |
| 図面修正 B | 橋梁一般図への旗上げ(川崎高架橋、東山田高架橋)、数量総括表 | 比較的簡易な図面 | 6 枚 | 修正率 30% |
| 図面修正 C | 足場工図(川崎高架橋、東山田高架橋) | 比較的複雑な図面 | 2 枚 | 修正率 50% |

（２） 対象橋梁

図面修正の対象橋梁は下表のとおりとする。

| 対象橋梁 | 上部工形式 | 上下区分 | 橋長 | 備考 |
|------------------------|--------------------|------|--------|----|
| 川崎高架橋 A1橋台 ～ P5 橋脚 | RC 連続中空床版桁 | 上 | 70.0m | |
| | | 下 | 70.0m | |
| 川崎高架橋 P5橋脚 ～ P8 橋脚 | PC 単純連続箱桁 | 下 | 55.0m | |
| 川崎高架橋 P8橋脚 ～ P43橋脚 | RC 単純中空床版桁 | 上 | 530.0m | |
| | | 下 | 530.0m | |
| 川崎高架橋 P49橋脚 ～ P59橋脚 | RC 連続中空床版桁 | 下 | 150.0m | |
| 川崎高架橋 P61橋脚 ～ P71橋脚 | RC 連続中空床版桁 | 下 | 150.0m | |
| 川崎高架橋 P71橋脚 ～ P77橋脚 | 鋼単純合成鈑桁 鋼連続合成鈑桁 | 上 | 191.6m | |
| 川崎高架橋 P71橋脚 ～ P77橋脚 | 鋼単純合成鈑桁 鋼連続合成鈑桁 | 下 | 180.8m | |
| 川崎高架橋 P85橋脚 ～P101橋脚 | RC 連続中空床版桁 | 下 | 238.5m | |
| 東山田高架橋 | 鋼単純合成 鋼単純箱桁 | 上 | 159.5m | |
| | | 下 | | |

2－4－8 工事発注用図面作成 数量計算

数量計算は共通仕様書 5－1 1－3「数量計算」の関連項目に準ずるものとする。

2－4－9 設計打合せ

打合せ回数は、業務内容確認検査及び完了検査を含め 5 回とする。当初の打合せは現地踏査に行い、打合せの検閲数量は 1 式とする。監督員が打合せ回数の追加を指示した場合や業務の追加、変更に伴い打合せを追加する必要がある場合の取扱い監督員と受注者とで協議の上決定するものとする。

打合せ場所は、東日本高速道路株式会社京浜管理事務所で行うものとする。ただし、打合せ

場所の変更を監督員が指示した場合は、受注者はこれに従わなければならない。

また、Web カメラ及びWeb 会議システム等を活用して打合せを実施する場合の取扱いは監督員と受注者との協議の上決定するものとする。

2-4-10 交通費・宿泊費

交通費・宿泊費には、設計打合せ及び現地踏査に必要な交通費・宿泊費を含むものとする。なお、業務に大幅な変更が生じた場合の打合せ回数の増減に伴う交通費・宿泊費は、別途監督員と協議する。

WEB 方式にて実施する場合の完了検査の交通費・宿泊費の費用は計上しないものとする。なお、協議により完了検査がWEB 方式から対面方式に変更になった場合の費用については、別途監督員と受注者との協議し定めるものとする。

2-5 成果品

成果品は、共通仕様書5-11-4「成果品」及び7-3-4「成果品一覧表」の関連項目に準ずるものとする。なお、報告書の表紙は黒色とし、金文字製本とする。

2-6 補足事項

本設計において、補修構造や施工計画が決定したのち、以下に示す項目を追加する場合がある。なお、これら設計の実施及び係る費用については監督員と別途協議し定めるものとする。

- (1) 点検中の橋梁における損傷箇所の補修設計
- (2) 本特記仕様書2-3-1「鋼製橋脚基礎 超音波測定」の調査結果に基づく、本特記仕様書2-4-5「鋼製橋脚基礎」の変更
- (3) 施工に伴い不要または支障となる排水管、既設検査路、通信管路等の撤去・移設・再設置に必要な図面作成および数量算出
- (4) 貸与資料を基に作成する積算数量表のとりまとめ
- (5) 既存の手書き図面(TIFF)の電子化(CAD化)

様式－１

令和 年 月 日

東日本高速道路株式会社 支社（事務所）
支社長（所長） 殿

住所
会社名
代表者

履行期間通知書

（調査等名）

標記について、発注者が示した全体履行期間内において業務の始期と終期を設定しましたので、
通知します。

記

１．契約保証取得の日

令和 年 月 日

２－１．発注者が設定した全体履行期間

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （ 日間）

（１．契約保証取得の日の翌日）

２－２．発注者が設定した余裕期間

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （ 日間）

（１．契約保証取得の日の翌日）

３－１．受注者が設定した業務の始期

令和 年 月 日

３－２．受注者が設定した業務の終期

令和 年 月 日

３－３．契約上の履行期間

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （ 日間）

（１．契約保証取得の日の翌日）

（３－２．受注者が設定した業務の終期）

以 上